



東京部会(第77回)

日時: 2015年9月05日(土) 14:00-16:30

場所: 日本大学経済学部本館2階中会議室

参加者: [順不同] 篠原総一(京都学園大学)、川瀬雅之(札幌清田高校)、山本雅康(奈良学園中学・高校)、山根栄次(三重大学)、西村理(同志社大学)、野間敏克(同志社大学)、加藤一誠(慶応義塾大学商学部)、梶ヶ谷譲(昭和音楽大学)、石山晴美(東京証券取引所)、鈴木深(東京証券取引所)、杉田孝之(千葉県立津田沼高校)、鈴木孝治(日本経済教育センター)、高橋勝也(都立桜修館中等教育学校)、埴枝里子(都立府中東高校)、新井明(上智大学非)、升野伸子(筑波大学附属中)、星典男(鎌倉市立大船中)、鍋島史一(教育実践研究オフィスF)、中沖栄(清水書院)、北村明裕(横浜市教育委員会)、高橋信弘(筑波大学院生)、絹川温子(京都学園大学)以上22名。

【内容要旨】

- (1) 今回は、札幌から川瀬先雅之先生、大阪から山本雅康など多くの参加者を得て、自己紹介から開始された。
- (2) まず、ネットワークの事業関係の確認が行われた。
 - ①夏の経済教室を踏まえた、経済教室を日本証券取引所グループと共催で行うこと。さしあたりは、今冬、札幌開催を検討することになった。
 - ②年次大会の開催で、3月19日(土)午後同志社大学で実施することが確認された。内容は、高校入試問題の検討、各部会で検討された授業提案、教材の発表・討論を予定。発表者の人選に関しては、各部会での公募、推薦など様々な方法を今後検討することになった。
- (3) 「夏休み経済教室」のアンケート結果の中間報告が、東京証券取引所石山晴美氏からあった。総参加者数は、967名、昨年より64名増加で、この数字は三会場としては最高とのこと。また、参加者の教員は、どの会場でも10年未満の経験年数の方の比率が最も高く、特に、大阪と東京中学向けでは半数以上を占めた、とのことである。各講義、実践報告などプログラムでは、参考になったとの評価が多く、先生方に役立つ内容が提供できていることが確認された。次年度に関して、日程の入れ替え、内容吟味などを今後検討することになった。
- (4) 札幌部会の川瀬先生からの報告があった。
 - ①札幌部会の活動の様子…年4～5回の開催で、実践報告や情報交換、ゲスト講師の報告などを主な内容としている。成果としては、中高の経済教育の課題の情報交換、高校入試問題の分析、教材開発や授業のアイデアの交流などがあげられる。
 - ②北海道の先生方<北海道高等学校政治経済研究会(道政研)>による調査から…高校の経済教育のなかで指導に困難を感じている項目では、「現代経済の仕組みと特質」の部分が減って、「国民経済と国際経済」の部分が増加している。ただし、このなかのどの部分が教えづらいのかの詳細に関しては、この調査からは浮かび上がっていないので、さらに調査が必要との指摘が質疑のなかで出された。
 - ③中高の接続による経済教育の課題…中学校で身につけるべきことと高校で身につけるべきことを明らかにしながら情報交換が必要。



④地域の身近な素材・題材の教材化…北海道地域性である、広さを踏まえた教材化が求められる。題材として、フェリー事故で、首都圏への輸送手段が寸断されたため、物流に大きな影響を及ぼしていることが紹介された。地元では新聞社説で取り上げられる重大テーマであるが、首都圏ではほとんど注目されていない。TPPに関しても、道内でも地域によって評価への濃淡があり、それを踏まえた授業なども必要である。

⑤川瀬先生自身が生徒に教えたいことの紹介…①変化をとらえ対応する力を育てること、②視点を定めたり、それを動かして考察すること、③経済を学ぶ面白さを伝えること、④学びの形態や方法を工夫することの四つ。

⑥教材研究と授業実践の事例報告…一つは、『ゲームブック君ならどうする食糧問題』のシミュレーション授業（川瀬先生の初任の工業高校での実践）。二番目は「三分間スピーチ」。三番目は「学校設定科目時事問題研究」。これは、新聞を使って読解、ツールミン方式のワークシート、北海道の未来像のポスターセッションなどに組み合わせた事例。四番目は、地域ネタの教材化で、名寄工業時代の鉄道建設と地域の調査、山崎辰也先生の北見市の都市問題などを紹介。五番目に、札幌清田高校での実践でまとめられた。

札幌部会の活動、北海道の地域性を踏まえた実践事例など、豊富な資料に基づく有意義な報告であった。

(5) 大阪部会の山本先生からの報告があった。

①私立の中高一貫校での取り組みの概略が紹介された。学校の特性から、どうしても英数、SSH高なので理科に傾斜した生徒や親の意識がある。その意向を踏まえつつ、中一から学年進行で授業を担当することで、公民の存在価値を認識させる教育を志し、三つの柱をたてた。まず、センター試験公民科対策を通じた経済教育。二番目はAO入試・推薦入試指導のなかでの新聞を読む力の育成や小論文作成のための基礎知識教育。三番目は、HR担任としての進路指導・キャリア教育への視点からの取り組みである。

②授業構想が二つ紹介された。一つは、「幸せの人生を経済しよう」を基にしたアクティブラーニングの授業。これは加藤一誠先生が開発された教材を基にして少子化問題を考えさせえる授業構想である。中心概念は、選択、希少性、機会費用であり、進学のコスト、結婚や出産のコストをグループ学習で自覚させて、それをもとに持続可能な社会の形成に主体的に参画してゆくことを認識させるねらいの授業である。討論では、コストだけに注目させるとますます少子化が進まないかななどの疑問点が出されたが、コストにもかかわらず、結婚や出産がなされて、生徒がそこに存在することを確認する授業が実際に山本先生によってなされていることが紹介され、共感をよんだ。

もう一つの授業案は、ホームルームでの国際理解の授業構想で、教材「グローバル社会を生き抜くために」を使ったものである。これは、同校で行われる夏休みの海外研修を踏まえ、教材で取り上げられた各地域をグループワーク(ジグソー学習)で行わせ、国際社会への認識と日本ができることを議論させようという三時間の授業構想である。これに関しては、ジグソー学習の効果やその準備などについての質疑が行われたが、内容に関しては、時間の関係で十分な検討時間が持てなかった。

③センター指導に関連して、高校三年生の生徒からとったアンケート(内容の理解度の確認シート)が資料として紹介されたが、時間の関係でこれも検討ができなかった。

山本先生の報告は、受験校での実践構想であるが、受験指導の中で、経済の概念や理論をしっかりと押さえたうえで、現実問題を考察させようとする指向が、参加者に強い印象を与えた。



(6) その他

①高橋勝也先生(桜修館中等教育学校)から、新教科「公共」の情報が寄せられた。必修教科の登場のなかで、経済教育をどうすすめてゆくか、今後の推移を注目することが確認された。

②新井から、メルマガの「三匹の子豚」提案の顛末と、その修正版(名古屋大学荒渡先生の作成したメモ)が紹介された。また、大学入試問題の検討の方向のメモ(鍋島さんのアドバイスをもとにしたもの)が紹介された。

(7)今回の東京部会は、川瀬、山本両先生の報告を中心に充実したものとなった。今後の、部会間交流、教材の検討を中心にした部会運営のモデルとなるものだったと言えよう。

記録と文責 新井

次回は10月8日(木)19:00~21:00。場所は日本大学経済学部。内容は、教材検討、実践報告、テスト問題の検討などを予定。